

春闘勝利！不採用問題の早期解決を！

第129回拡大地方委員会を開催



集約を行う諏訪書記長

地方本部は3月6日、第129回拡大地方委員会を開催した。当面する春闘をはじめ、飯山線の支社境界変更、検修合理化など山積する諸課題と、最重要課題である1047名不採用問題の早期解決、組織強化・拡大の闘いの方針を確立し、全力で闘い抜くことを確認した。

太田耕三副委員長のあいさつで開会し、議長に長野建築区分会松本初男地方委員が選出され議事に入った。あいさつで太田克彦委員長は、①国鉄闘争―マスコミ報道があるが、これからが

大きな闘い。中央に結集し支援共闘と共に闘いを進めていく。②安全とコンプライアンスについて―コンプライアンスは重要な問題。合理化等での組合員の不安解消に向け取り組む。③組



発行所
国鉄労働組合長野地方本部
長野市中御所3-2-22
発行者 太田克彦
編集者 清水孝次

2010年3月15日
第1468号

●国労加入を 大胆に訴えよう！

●組織拡大の原点は分会。復帰・加入者の異動にともない新しい職場で支える体制を ●地域の仲間が国労

春闘は正念場の闘い

昼食休憩を挟んで方針討論に入り、地方委員・構成員の15名が発言した。主な内容は、

●組織拡大の原点は分会。復帰・加入者の異動にともない新しい職場で支える体制を ●地域の仲間が国労

●組織拡大の原点は分会。復帰・加入者の異動にともない新しい職場で支える体制を ●地域の仲間が国労

●組織拡大の原点は分会。復帰・加入者の異動にともない新しい職場で支える体制を ●地域の仲間が国労



東日本本部 武笠執行委員あいさつ

①1047名不採用問題 4者4団体の団結を背景に窓口で交渉を行っている。政権交代が解決への大きなステップとなり、2・16集会に4千名が結集するなど、私たちの闘いが現在報道されている内容を引き出している。23年間で60名が他界された。何としても解決しなければならぬ。機関に集中し、団結を崩さず出口まで闘い抜こう。

②コンプライアンスと安全 信濃川発電所の取水問題等コンプライアンスは重要な問題となっている。安全問題は、その背景に効率化施策がある。検修合理化で

は他労組を巻き込んだ闘いにしていく。設備メンテナンス見直し提案されたが、会社の考え方を引き出し解明に繋げていく。働きやすい職場、働きがいのある職場をつくらう。

③組織強化・拡大 エリア大会以降11名の拡大があった。職場での和解の趣旨の徹底が改めて必要となっている。

④10春闘 昨年に増して厳しい状況にある。経営側は賃上げよりも雇用、賃下げ方針を示している。国労は2月10日、5000円の賃上げを申し入れた。東日本では東労組が夏季手当の要求をしたため、3・2ヶ月を申し入れた。統一行動、貨物総行動への積極的参加をお願いする。

⑤参議院選挙 我々の要求実現に奮闘してもらえ、我々の要求実現に奮闘し

●組織拡大の原点は分会。復帰・加入者の異動にともない新しい職場で支える体制を ●地域の仲間が国労

●組織拡大の原点は分会。復帰・加入者の異動にともない新しい職場で支える体制を ●地域の仲間が国労

●組織拡大の原点は分会。復帰・加入者の異動にともない新しい職場で支える体制を ●地域の仲間が国労



決意と力を込めて団結ガンバロー

解決まで支援します！

紋別・美幌へ現地激励行動

国労支援県共闘会議と地方本部は、2月27日から3月1日に、県支援共闘の高橋博久議長を団長に、15名の参加で紋別・美幌への現地激励行動を行った。JR不採用から闘争団結成、そして今日までの経過と現状報告、JR不採用問題解決に向けた与党案の新聞報道などについての意見交換と交流を行った。

■一日目

紋別闘争団と交流

紋別空港に降り立つと、清野紋別闘争団長、長縄美幌闘争団長が迎えに来て、マイクロバスで紋別闘争団事務所まで移動した。

この日は快晴に恵まれ、例年になく温かさに道路脇の雪は溶け始めていた。長野に比べ空気は冷たく感じられたものの春の間近さを実感



紋別闘争団事務所

した。紋別闘争団事務所では、団員との意見交流会を行った。

団員からは「解雇後、妻や親戚から闘争団での活動を反対され、やむを得ず個人自活を選択する人もいた」「子供たちが国鉄闘争の最大の被害者。親として十分なことをしてやれなかった」「ホタテの収益金を子供の進学資金に充てていた」などの家族を含めての苦勞が語られた。

解決案のマスコミ報道について、①紋別では、55歳以下のJR復職対象者は、3名。復職しても紋別とは限らず、50キロ離れた遠軽または100キロ離れた北見の職場になるかもしれない。②年金が重要な課題であり、分配をめぐる議論を慎重に行なっていく。③貸付金が解決金を上回っている団員は、復職しても貸付金返済で困難な生

活が続く、との見解と「報道は政党案でしかない。政党案を崩さない闘いをして政府・機構・JRに履行させなければならぬ」など率直な思いを話してくれた。

場所を移し家族を交えての交流会では、家族から「解決が目の前に来て、23年の闘争で厳しい生活を強いられていたが、お父さんを信じてもうひと踏ん張り頑張る」との力強い決意を聞き、家族が一つになって闘ってきたことを実感した。

■二日目

美幌闘争団と交流

前日に続き良い天気にも恵まれた中、サロマ湖を望み美幌へと向かった。

美幌闘争団事務所での交流会では、解決後の進路についての質問に団員は「政党案は新聞・テレビで知ったので、政府案として実現するの戸惑っている」「47歳の自分はJRで働く希望はあるが、反面23年のブランクがあるので不安だ」「第1希望はJRだが、関

美幌での交流会



連会社でもいい」とのJR復帰を望む声と共に、公的部門を希望する人もいた。

我慢を怒りに！春闘に勝利しよう！

家族を交えた交流会では、家族から「解決への兆しが見え始めたことに期待感を持っている。諸手を挙げて喜ぶのではなく、政府案が決定するまでもうひと踏ん張りしたい」との言葉に激励行動に参加した我々も決意に向け更なる奮闘を決意した。

■三日目

「解決まで支援します！」

最終日は、玉ネギ集荷場で働く美幌闘争団の瓢子さんの職場を訪れた。瓢子さんの仕事は、収穫された玉ネギを入れたコンテナをフォークリフトで移動するもので、土ぼこりが

舞う中、防塵マスクを着用しなければならぬ環境で作業をしていた。空港に向かう途中、屈斜路湖を望む美幌峠で北海道の寒さを体感したが、例年になく暖かさにより、流水が沖合いに去り、楽しみになっていたガリンコ号での体験が、湾内クルーズとなつてしまったことは残念であった。

◆退職の際は、鉄道退職者の会への加入を！◆
◎鉄道退職者の会 長野地方連合会
電話 026-226-6658

◆交運共済からのお知らせ◆
マイカー共済の新規加入を！
◎全国交運共済生協 長野事業部
電話 026-291-5057 JR:067-2583



長野貨物協議会は、3・15貨物中央行動に呼応した地方での取り組みとして、篠ノ井、南松本での組合旗の掲出と、塩尻機関区篠ノ

井派出前で15日に連帯集会を開催した。

篠ノ井では、掲出された組合旗を見た元高教組の方が「昔は、この時期はあちこちに組合旗が揚がっていた。今では寂しい限り。旗を揚げ続けている国労の皆さんガンバレ！」の熱いエールを送ってくれた。地方の小さな行動であっても「要求し、闘い続ける」姿勢を忘れてはならない。

勝ち取れ満額！
家族の笑顔！

風にひるがえる組合旗の前で行った連帯集会には、

約20名が結集した。

情勢報告は、3月11日、第3回の団体交渉で会社側が「3月の収入は対前年をクリアしているが計画ベースではショートしており、ベア、定期昇給は実施できない」との姿勢を示したと報告された。

就業規則では、昇給は「4号俸以内4月1日実施」と明記されており、それを一方的に踏みこむことは実質的な賃下げであり、断じて認めることはできない。

会社への怒りとともに、それのかたくなな姿勢を打ち破り、ベア5000円満額獲得、

得、定期昇給の完全実施に向け更なる取り組みの強化を確認しあった。

定昇なしは許さない！
中央の貨物総行動には、地方本部から貨物・旅客合計11名が参加した。

東京「全水道会館」で行われた集会で、本部田中副委員長と全貨協奥村議長は「奪われ、また奪われようとしている賃金を取り戻す春闘」「風を吹かそう！全貨協は先頭に立つて闘う！」と力強く決意を表明した。

その後、日本大学桜井徹教授を講師に「貨物会社が抱える経営課題」をテーマに学習会が行われた。

デモ行進は、貨物本社前を通り「10春闘勝利！」「貨物会社は定期昇給を行え！」などのシュプレヒコールで、春闘を闘い抜く決意と貨物会社へ怒りをぶつける行動を終了した。